

『New Treasure 研究会 東京会場』実施レポート

日時	2017年8月20日(日) 14:00-15:00
場所	TKP 神田駅前ビジネスセンター
<p>【基調講演】 英語教育改善の方向性とこれからの英語教師に求められること ～次期学習指導要領改訂と大学入試改革を踏まえて～ 敬愛大学国際学部教授 前文部科学省教科調査官 向後秀明先生</p> <p>◆中・高等学校での英語力(4技能)の現状(H27 中学3年生, 高校3年生の「英語力調査」より) (向後先生が入省されるまでは数値データがなかった) 〔中学〕 R, L=A1 下位にボリュームゾーンがあり, このままでは英検3級レベルは難しい。 W=A1 上位が 50 パーセントを超え, 目標越えのように見えるが, 最も多い得点層は 0 点 (白紙答案・内容は良いが質問に対応していない→覚えた英文を書いただけ・英語の誤りが多く意味が取れない)。 S=A1 下位にボリュームゾーン 〔高校〕 R, L=A1 上位にボリュームゾーンがある。英検準2級レベルには届かないが, 1年で大幅アップしている(H26の対象者は前学習指導要領下で学習した生徒) W=ほとんど A1 だが, 0 点は激減している(テスト適式に慣れてきたことが要因か) S=ほとんど A1 のまま 全体として, 中学生の目標値に高校生がようやく到達しているという現状。また, トップ層(B2)がほぼゼロというのも課題。</p> <p>◆教員の英語使用率 ・中高ともに上がってきているが, さらに伸ばす必要があるだろう。 ・高校では, 生徒の英語習熟度(学年)が上がるにつれて教員の英語使用率が下がるという, 世界的に見ても特殊な現状になっている。</p> <p>◆英語指導で目指したい姿 ・教員と生徒, 生徒同士の関係性が外国語学習においてはとても大切である。 ・積極的な発言, 意見交換など, risk-taking できる生徒を育てることが必要。 ・CAN-DO リストの作成⇔文法事項の羅列になっていないかという懸念 cf. 進化する英語授業…全英連山口大会の授業: warm up も生徒自身で行う。</p> <p>◆次期学習指導要領について ・「知識・技能」「思考力, 判断力, 表現力等」「学びに向かう力・人間性」の3点を養う。 ・「生きて働く」知識がある(そうでない知識もある)という点が明確化された。 cf. フラッシュカード, 単語集による語彙学習だけでは, 「生きて働く」知識の育成につながるとは言えないかもしれない。実際の使用場面で活用していくことが重要である。</p>	

・将来的にはアジアでトップレベルを目指す。そのため、高校卒業段階のレベルを英検 2 級程度としている。併せて、語彙数も小・中・高で 5,000 語程度までの指導を可能とする。（ただし、全ての語彙を productive レベルにする必要はない。receptive→productive に変化する割合を増やす）

・中学校の学習指導要領では、聞いた内容を「英語で説明する」までが「聞くこと」の言語活動になっている。

cf. あと数年継続することとなったセンター試験も、大きく変わっていくかもしれない。

・高校では、科目名は全て変更になる方向。全体として、CEFR を意識し、技能統合を前面に打ち出した内容になるだろう。

cf. 2 つのグラフを読み解き、そこから導ける結論を述べる問題 (TEAP) など。

・アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）＝外国語教育の枠組みでは、技能統合型の活動が深い学びに密接に関連する（外国語で思考・判断・表現できることが目標）。

◆大学入試改革

・センター試験（のみでの選抜）が数年間残るが、数年後には外部試験のみになるだろう。

・大学への結果公開は CEFR バンドを想定しているが、選抜指標として、国大協からの反発もあるのが現状。

◆授業を改善するための条件

・「思考・判断・表現」しながら新たな「知識・技能」を獲得していくという流れが重要だろう。この流れは、第二言語習得では一般的だが、日本では逆（知識のインプットに終始）になりがち。

cf. 『New Treasure』だと、CT (Critical Thinking) パートをどう使うかが今後の鍵になる。たとえば、教科書で与えられているサンプル・センテンスに対して、もう 1 手加えていく（反論する role-play など）などで、踏み込んだ議論が可能。

・検定教科書も抜本的に変える必要がある。

◆英語教育者として

・大学入試がゴールではない。生徒の 5 年後、10 年後を見据えた指導が必要。

cf. 与えられたテーマに関する Advantages & Disadvantages を考えさせるタスクでは、ppt に単語レベルでアイデアを追加していき、それを利用しながら指定された立場で role-play をするのはどうか。自分自身の意見を述べるよりも、生徒が取り組みやすい。

・教員の英語力向上も鍵である。教科書の内容の oral summary, 楽しい素材をたくさん聞いたり読んだりすることなど、できる部分からと取り組むとよい。

・子供たちに自信を付けさせる教育を！

◆質疑応答

Q: 入試が変わるが、高校現場としては個別試験の変更が気になる。方向性はどうなるのか。

→個別試験は変えようとしているところと、あまり変化がないところと様々。

国立大学は、すでに鹿児島大が全学部で外部試験を導入するなど、全国的に大きな動きになっていくだろう。

国としては個別試験も四技能型にしてほしいが、外部検定一本になる大学が増えるだろう（とくに私立）。

他には、外部検定を利用し、個別試験では大学としてプラスに必要な能力のみ問う、などになるか。

以上

『New Treasure 研究会 東京会場』実施レポート

日時	2017年8月20日(日) 15:10-16:10
場所	TKP 神田駅前ビジネスセンター
<p>【事例解説講演】2020年を見据えた『New Treasure』の指導法 ～NT採用校の現状課題と未来への処方箋～</p> <p style="text-align: right;">十文字中学高等学校 高瀬聡伸先生</p> <p>◆NT利用校の実態調査アンケート報告</p> <p>○指導中のレッスン</p> <p>中1は Lesson4 くらい=定期テストまでに2レッスン, くらいのペースが多い。 中2は Stage1 Lesson14 が多い=3年間で2冊程度の学校が多い。中3は S2 後半か S3 に入る。</p> <p>○授業形態: 中学では分割授業が多いかと思っただが, 一斉授業のほうが多かった。高校では一斉授業が増える。 分割形態は「2クラス3分割」が多かった(先生の負担は大きくなる)。 テストは共通が多く, ここは評価との兼ね合いだろう。</p> <p>○小テストの工夫</p> <p>上位クラスでは文法確認テスト, Writing, 本文サマライズなどが特徴的。 下位クラスでは, 単語テストの問題数を減らす, 穴埋めにする, 問題を事前に指定するなどの工夫が見られる。</p> <p>○扱っているセクション: Grammar, KP (Key Points), Read はほとんどの学校で使っているが, CT (Critical Thinking), Com (Communication) は30%程度でしか使われていない。上位クラスでは CT を使っているが, 下位クラスでは代わりに Com を扱うような事例あり(会場でも「事例校③」のパターンが多い)。</p> <p>○外部試験: 最も多いのは英検, 次は GTEC for S (CBT はなし)。 4技能の養成については, 英作文の指導・テスト, スピーキング対策, 思考力重視の傾向。</p> <p>◆思考力トレーニング授業の実践事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルームのタキソノミー→21世紀型スキル ・(日本) 文部省「生きる力」→ロジカルシンキングブーム→思考力型入試(私立で導入)→2020: 思考力・判断力・表現力を問う入試 ・思考力の型として, ブルームのタキソノミーが教育目標の指標になっていった(PISA, CEFR, などにも反映されている)。 <p>cf. 首都圏模試センターの「思考コード」→欧米の現地教材も思考コードのテーマをもとに構成されている。</p>	

◆思考力トレーニングを授業に取り入れる

- Grammar 英文を用いて思考力トレーニングを行っている。
- 本文について， Closed Question, Referential Question, Logical Thinking Question を扱う（1コマのうち 20 分くらい） =CT の要素を Grammar パートにも盛り込んでいくことで，思考力を段階的に養う。
- タイトル付けや比較（本文で触れられていないもの）については，グループで話し合わせる。また，○×の確認だけではなく， Why do you think so? を必ず発言させている。
- レッスンごとに，テーマとなる思考コードを一覧化している。今後，ワークブックなどに入れていけるとよいのではないかな。

◆Z 会への提言

- 思考力問題集の作成：上述のように， NT のワークブックの設問として盛り込む，別テキストとして作成するなどはどうかな。
- Grammar で思考力を体系的に訓練させる必要がある。
- CT の認知： Grammar パートにも盛り込むなど，使用率の高い部分に盛り込んでいく工夫が必要ではないかな。

以上

『NEW TREASURE 研究会 東京会場』実施レポート

日時	平成 29 年 8 月 20 日 (日) 16:30-17:30
場所	TKP 神田駅前ビジネスセンター5G
<p>【講演要旨】</p> <p>【分科会 1】 『これからの世界で求められる学力、英語力の更なる強化に向けて、 ~ NewTreasure デジタル教科書や ICT 教材を活用した事例報告 ~ 西武台新座中学校・西武台高等学校 栗原隆恵先生</p> <p>留学経験～変わるべき教育・入試</p> <p>オックスフォード大の未来予測：日本の労働人口の半数が A I やロボットに置き換えられる！ (10～20 年後)</p> <p>世界が変わる 社会が変わる (日本) 大学入試が変わる 高校・中学も変わる (べき) ...学力の 3 要素</p> <p>* 3 要素： 基礎的・基本的な知識・技能の習得 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度</p> <p style="text-align: right;">学校教育法 第 30 条第 2 項より</p> <p>日本の入試は に偏重している</p> <p>オックスフォードの教育...権威的・一方向的なイメージがあったが、実際は正反対。自由かつ多様。 アメリカの教育観シフト...1990 年代から顕著 Cf: 映画「今を生きる」</p> <p>日本の教育観シフト...主に 2000 年代から 入試 教育改革の大きな流れ、企業が求める人材の質的变化 暗記中心の学習から、経験的に学ぶ学習へ 知識は与えられる 気付きは自ら構成する ある時点の能力を評価 継続的な評価</p> <p>* 大学入試改革 「相互選択型入試」に注目 (大学：ポリシーの明確化 受験生：自分に合った大学を主体的に選ぶ) 例) 国際基督教大学 (一般入試...総合的思考力+語学) 追手門学院大学 (アサーティブ入試) 御茶の水女子大学 (図書館入試)</p> <p>文系の図書館入試、理系の実験室入試はより一般的になる</p> <p>英語</p> <p>→発音試験・四技能試験 (外部試験)・スピーキング →「覚える」から「考える」試験への変更 (ロジカル→Critical) →英語の文章題に含まれる語数の増加</p>	

不易と流行

不易 = 基礎学力 (読み書きそろばん) 流行 = 英語、ICT、総合

学校紹介~ICTをフル活用した授業

高偏差値校ではないが、従来からの学力観は重視 一定の成果

アクティブラーニング

- ・ PBL (課題解決型学習) や PIL (教えあい学習)。いずれも Critical Thinking が基本。
- ・ 講義があってこそそのグループ活動だと考えている。
講義の良さ: 短時間で知識の伝達ができる / 問題提起・情報の整理
- ・ 調べ学習...インターネット書籍、教員の作成した資料
- ・ 教員の役割...生徒の意見を聞き、つまづきに対する「気づき」を示唆 [教員=ファシリテーター]
- ・ 情報の整理...タブレット端末のメモ, ノート
- ・ グループ活動... 3人1班 & 3班1組が基本→6人・9人に組み合わせていく
- ・ 根拠を持って相手を納得させるように説明する (小さな発表は毎回行う)
- ・ 自分たちで考え、協働的に取り組むことで、魅力的なムービーを作成できた。
- ・ 偏差値が目的ではない (過去問を扱ってはいない) が...、
ベネッセ SS は 48 (中1) 55 (中3) 61 (高3) と上昇。

西武台の英語の特徴

- ・ 発音・発声を重視
中1では発音に2コマを充て、音素ごとにトレーニングを行う
発音アプリ「ジングルズ」: 自分の発音を録音・再生できる (評価はできない)
- ・ 栄養価の高い英文読解
- ・ 「覚える」から「考える」授業へ

NT デジタルの活用...音声出しがとにかく便利、コスト高

カラオケ機能は音読練習に効果...家庭学習として課している

リンク機能...動画などを紹介、集中力保つ

NT-Lab (教材の活用, よりよい授業の検討)

ロイロノート, Evernote などの活用

- ・ 英語を自然に身につける姿勢
- ・ ラーニングピラミッドを参照...思考の言語化

Cf: ブルームのタキソノミー

Z会へのお願い

- ・ スピーキング力の測定、練習を行うソフト (添削)
 - ・ 教科書に準拠した文法項目の演習をタブレット上で行いたい
- 苦手分野の分析、対策問題の自動作成
- ・ 絵本や長文素材の充実 (電子化)

質疑応答: 時間の関係上、個別対応

以上

『New Treasure 研究会 東京会場』実施レポート

日時	2017年8月20日(日) 16:30-17:30		
場所	TKP 神田駅前ビジネスセンター5G		
<p>【分科会 2】 英語 4 技能の更なる強化に向けて ～『New Treasure』準拠オンライン英会話の活用事例報告～ 豊島岡女子学園中学校・高等学校 町田真彩子 先生</p>			
<p>◆自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、オンライン英会話を導入したが、特に ICT に詳しい訳ではない。実は本講演のパワーポイント資料を作るのも精一杯である。だが、ICT スキルがなくてもオンライン英会話の導入をすることが出来た。 ・現在、7歳と3歳の子どもがいるが、3歳の子がスマートフォンを自在に操っている姿を見て、「デジタルネイティブ」世代であると認識する。そのような子ども達に今後どのような教育をすべきなのかを日々、考えている。 			
<p>◆学校紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池袋にある中高一貫の女子校 ・部活動は全員参加。 ・運針により、集中力を高めている。 <p>http://cocorocomeast.com/archives/2196 (動画映像：ココロコミュより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学入学生 6 クラス (約 270 名) + 高校入学生 2 クラス ・『New Treasure』を使用している生徒は中学入学生。テキストは S4 まで使用。高校入学生は検定教科書を使用。 ・「New Treasure Online Speaking (=NTOS)」(『New Treasure』に準拠したオンライン英会話)を受講しているのは中学入学生。 ・学びの中心は授業と生徒に伝えており、塾に行かなくとも、四年制大学に進学できることを学校として目指している。 <p>現在はオーソドックスな授業を展開しているが、新しい教育も摸索していこうとしている。</p>			
<p>◆カリキュラム (中 1～中 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010 年より NT を採択しており、Read, Grammar パートなど教科書内容を全て授業で扱っている。 ・英語の授業単位数 			
	英語 A(NT 使用)	英語 B (文法)	英語 B (英会話)
中学 1 年	5(→4) 単位 ※2・3 学期=4 単位	0(→1) 単位 ※2・3 学期=1 単位	1 単位
中学 2 年	5 単位	1 単位	1 単位
中学 3 年	4 単位	2 単位	1 単位

・英語 A の主な授業内容

Key Points: 対訳表で暗唱

→小テスト

→不合格の場合は、追試（昼休み）

Read : 予習プリントの問題を事前に解く

→説明、音読

→小テスト

→不合格の場合は、追試（昼休み）

・英語 B（文法）の主な授業内容

新中学問題集を使って既習事項の定着を図る。

・英語 B（英会話）の主な授業内容（2016 年度まで）

ホームルームを 2 つに分けて少人数で実施（各日本人・ネイティブの TT）

年 3 回の実技テスト

2017 年度からオンライン英会話を導入

— 中 3 英語 B の英会話の授業で入れた。

— 場所は情報教室を使用。ノート型 PC で Wi-Fi ではなく有線を使用している。

— 1 回あたり 23 名（1 クラスの半分の人数）で実施。

◆導入までの経緯

・スケジュール

2016 年 11 月 モニター1 回目（中 1・中 2 の生徒 24 名）

— Skype で実施。25 台中 13 台しか接続できず。

— PC カメラの向きが生徒の方を向かない…。

— 音量の上げ方もわからなかった。

2016 年 12 月 モニター2 回目（教員対象）

— 他教科の先生や事務の方も参加。

・当初は、導入する気ではなかったが、生徒の反応を見て考え直した。

生徒にモニターを紹介したら、Skype やオンライン英会話の存在すら知らなかった。

→生徒に啓蒙する必要があると感じた。

少人数よりも 1 対 1 が優れている効果があると実感。

モニター対象は中 1（上位層）、中 2（中下位層）

中 2 下位層の生徒に感想を聞いたら「全然分からなかった」という回答であった。

当初中 3 生は、英会話はクラス単位で分割しておらず、2 単位の文法を 3 段階の習熟度別にして
いた。一番下のクラスでも 20 人程度のクラスサイズ。

40 人に比べると 20 人は少人数だが、1 対 1 には適わない。

◆2つのハードル

【設備面】

- ・1回目のモニターで失敗→英語科だけでやったのが失敗だった。
- ・2回目の教員対象の場合は、他教科や事務方にも声をかけて実施した。
- ・安定的な接続を可能にするにはどうすれば良いのか？

Skype → ◎ Appear In

WiFi → ◎ 有線

タブレット → ◎ ノート型 PC

上記の条件に適合させるために視聴覚室から情報教室に場所を変更して対応した。

【カリキュラム面】

- ・どの学年で導入するのか。→ 中学3年生
- ・授業に入れる場合はどこに入れるか？ 授業外だと先生も生徒も負担が増える。
- ・ALTの英会話の授業に入れたが…ALTの英会話は完全になくしなくなかった。
- ・1クラスをハーフサイズ（23人）にして隔週で、ALT英会話とオンライン英会話を実施。
- ・年間で何回行うのか（どのくらい効果があるのか）。
 - －啓蒙として、動機付けとして年10回。
 - －10回と30回で効果は3倍になるのかという検証は必要。
 - －ただ、0回と10回の効果は違うと考えた。
- ・50分授業のうち25分がレッスンだが、残りの時間を有効に使うには？
 - 多読プログラム（Literacy Pro Library）と組み合わせた。
 - オンライン上で洋書を900冊ほど読むことが出来るプログラム。
 - 何冊読んで、何ワード読んだかを閲覧することもできる。先生の管理機能もあり。
- ・オンライン英会話導入のマイナス面
 - ALT英会話は実質半分になり、2週間に1回の授業だと課題などを忘れてしまう。
 - ただ、マイナス面を考えても多読と英会話を授業に導入することは意義のあることであった。
- ・4月から情報教室で授業を実施
 - オンラインレッスンは5月に開始、4月はPCの使い方と多読プログラムのオリエンテーション
 - 大文字・小文字の打ち方の違いすら分からない生徒もいた。

◆50分の授業展開

0～10分 準備（テキスト配布・PC立ち上げ・QRコード読み取り）

10～35分 レッスン（25分間）

35～50分 振り返りシート記入（→毎回提出）

終わり次第多読プログラム

◆大変だったこと

- ・接続トラブル（2名振替）
- ・スタート時間の変更

- ・ 25 分経たずに終わってしまった。

→テキストはこなしたものの、フリートークをしないで授業が終わってしまうこともあったが、現在は解消されている。

◆テキストの魅力

- ・ シチュエーションにあわせたプログラムが 4 つあるというのが良い（会話の自由度が高い）。

◆今後の課題

- ・ 瞬発力を鍛えたいが、どこまでしこむのか

→まじめな子ほど「予習をしたい」という生徒もいる（当日レッスンシートを渡している）。

- ・ 生徒の多様性にどこまで対応するのか

→成績はよいが、寡黙でもの静かな性格の生徒だとレッスンに苦手意識を持つことも。

成績はよくないが明るい生徒は楽しめている様子。

英語と日本語で人格が変わるような生徒もいた。

1 対 1 のマンツーマンによって、帰国生など英語力の高い生徒にも対応できるようになった。

- ・ WR 活動との連動

- ・ タイピング練習との連動

◆質疑応答

Q. 英語科内の反対はなかったか？

A. 2 回目の先生モニターの際に比較的好意的な意見が多かったので、前に進んだ。

Q. 2 名接続出来なかった生徒はどうしたのか？

A. 風邪などは、振替えはない。公欠のときや機器の不具合などは、振替えをしてもらった。

Q. Read でのパートはあるか？

A. ない。

Q. 生徒に対してのフィードバックはあったのか？

A. レッソンの終わりに 5 段階評価を RJ の講師からしてもらえる。

現状は口頭のフィードバックで終わっている。

Q. 教務の先生の反発はなかったか？

A. 実は教務的には楽になった。

習熟度別の授業カリキュラムの方が教務としては設計が難しかったので、逆に解消された。

以上